

A-13 東海道

対象学年・教科

小学校1年以上生活科・社会科・
図画工作・総合的な学習の時間



東海道五十三次（図表シート） [594×841]

東海道は、慶長6年(1601)に徳川家康によって整備された五街道の一つで、江戸と京を結ぶ道です。距離に目安になるように一里ごとに一里塚を築き、道中には53の宿場が置かれました。このうち市域には、46～48番目の宿場である亀山宿・関宿・坂の下宿があり、多くの人々の往来で賑わいました。なお、江戸と京は起点と終点なので、宿場はありません。



広重がえがいた街道名画「東海道五十三次」
〔箱330×230×57、名画1枚310×220が54枚〕

初代歌川広重は、その生涯において、東海道を題材にした風景画を数多く描きました。そのため、現在では、区別するために、シリーズ名（通称）をつけて呼び分けています。この浮世絵は、保永堂と仙鶴堂が協同で出版しましたが、保永堂から多く出版されたので保永堂版と呼ばれています。保永堂版は、初代歌川広重が東海道を描いた浮世絵の中でも特に出来がよいとされ、広重の出世作となりました。



東海道五十三次双六

[900×1800(900×600が3枚)]

江戸から京都へ進んでいく東海道五十三次の双六です。双六の絵から、宿場だけのところ、宿場町と城下町だったところがわかります。早くあがった人が勝ちとなります。

<双六用のこまとサイコロが入っています>